老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。

シリーズ戦後70年

～満州で敗戦、ソ連の略奪を見たHさん「平和が一番です」～

戦後70年という節目を迎え、戦争を経験された入院患者さんのHさんから貴重なお話を聞く事ができました。

西村　和彦

「私が戦争に行きたかった！　お国のために戦いたかった！でも私は幼かったし、女性でしょ？叶わない夢で悔しかったですよ。」

今回お話を伺ったのは、昭和5年に湯原で生まれた現在85歳の女性Hさん。6人兄弟の4番目として生まれました。冒頭から当時の率直な気持ちをお話して下さいました。

「私は小学校4年生の時に、父の仕事の関係で満州に移り住みました。当時日本は戦時中でしたが、私はチャムスという兵隊の町で関東軍（大日本帝国陸軍）に守られて生活していました。私達の仕事といえば、兵隊さんの胸に付いている憲章を縫うことでした。学校にも行けましたし、食べ物にも困りませんでした。平和な町でしたよ。」

Hさんの話を聴き取る筆者

そんな時、5つ違う兄が自ら志願して飛行機の整備兵になった事を知りました。

「私はなぜ兄が予科練（特攻隊）に志願しなかったのか、悔しくてなりませんでした。整備兵ももちろん大切な仕事ですが、男なら特攻隊に志願してほしかった。私は、兄がお国のためなら戦死しても構わない。当時は本気で思っていました。」

満州で平和に暮らしていましたが、昭和20年8月9日、ソ連軍が満州に攻め込んできました。この、ソ連対日参戦は日ソ中立条約を一方的に破棄したソ連軍による侵略、奇襲攻撃だったため、事前に疎開先へ避難する事は困難だったそうです。

「戦争の恐ろしさを知りました。本当に怖かったです。ソ連軍は幼い子供を平気で銃で撃ち殺したり、時計などの金目の物を強奪していきました。女性は狙われやすいから頭を坊主にし、顔を墨で塗って男性の様な格好をして身を潜めていました。当時は缶詰が必需品で、様々な缶詰で飢えを凌いでいました。他には満人（中国人）が売りに来る鳥の足や団子や蒸し饅頭、米や味噌汁を時々作って食べていました。その後はスイカという飛行場に避難して生活していました。」

1945年8月15日、終戦を告げる玉音放送も満州で聞いたそうです。当時はまだ幼く、放送も途切れ途切れだったためあまり理解出来なかったそうです。

「あれから70年、日本はまだアメリカの言いなりなのですね。そろそろ独立すればいいのに。戦争法案が可決されたでしょ？戦争したって多くの犠牲者が出るだけで何も残らない。戦争は絶対してはいけません。平和が一番です！」

最後に、そう力強く語ってくれたのが印象的でした。

コープリハビリテーション病院
3病棟
介護福祉士　西村　和彦

ボランティア紹介

手づくりの歌集を片手にうたうと“びっくりぽん”のエピソードがひろがる

うたごえボランティア 高階尚子（総社市）

筆者　高階尚子さん

私は頸椎の手術後、2013年4月～6月まで健寿協同病院（現在：コープリハビリテーション病院）にお世話になっていました。私自身のリハビリをうけるかたわら、ボディートーク（息のあり方が中心の心や身体ほぐしの体操）で歌を歌っていた時、「ふるさと」の歌に感動し、涙してくださる方がおられ、一緒に歌うことになりました。

そこから輪が広がり、毎日夕食後に食堂で「歌の会」ができました。病室で歌詞を書き、印刷した用紙ができると、手指のリハビリと言いながら、みんなで半分に折ったり、表紙の色塗りを手伝ってくださり、「心の歌1～3集」（計138曲）の歌集ができました。

毎日歌うことで、きっと、唾液がよく出るようになったり、嚥下がスムーズになったり、気管支がしっかりして、大きな声が出るのだと思います。そして脳や目、耳の刺激になる。何より、みんなと手拍子し、笑うことにより、心が和んだり、前向きな気持ちが生まれるなど、朝の連ドラのヒロインの口癖「♪びっくりぽん」でした（笑）。

退院するときに、鍛本先生から、「退院したら、歌のボランティアにきてよ！」と言われた言葉を支えに、私自身のリハビリのつもりで、毎月、第4水曜日の午後1時間程度、みなさんと歌っています。

入院中と同じように楽器無しで、出だしの音をとって、「ハイ！」で歌いだすスタイル。私は歌いながら、ボディートークのあたたかい息と手で一人ひとりのそばに行き、背中を撫でたり、トントンし、息をおろします。時には、太鼓の代わりに竹のバチでダンボールを叩いたり。恥も外聞も捨て、「ア・イ・ウ・ベェー」と思い切り声を出し、表情筋を動かす。カラス・牛・オオカミの遠吠え、山に向かって「お～い！」「ヤッホー！」と叫び、胸のモヤモヤやつかえを吹き飛ばす。大笑いをするなど、歌と同時にベッドの上ではなかなかできにくい事を、1か月に一回、短時間ですが経験してもらっています。「童謡を歌ったのは何年ぶりじゃろ。」「いい歌じゃなあ、涙が出たわ。」「この流行歌には思い出があるんよ。」と、頭の奥に眠っていた事を思い出して、語られる人もいます。入院中に大変な思いをして作った歌集ですが、あれがあるから今の歌があります。

総社からの道のりは、車で往復2時間位かかり、だんだん来るのが困難になってきていますが、できる限り続けようと思っています。

うたごえボランティアで指導している高階さん（中央）

○お問い合わせ先
倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
老人保健施設 老健あかね
TEL 086-444-3212（代表）
受付時間　8：30～17：00
（土日祝・年末年始を除く）

〒712-8024
倉敷市水島北春日町4番3号

ホームページ
http://coopreha.jp/

メールアドレス
info@coopreha.jp

広報委員会
発行責任者　笹舘　勝人

新入職員紹介

老健あかね
介護福祉士
妹尾ひとみ

コープリハビリテーション病院
1病棟　病棟事務
佐々木彩子

コープリハビリテーション病院
事務課　事務
岩本　菜月